

＝中＝

厳しい暑さが残る9月
上旬。徳島県立工業技術
センター（徳島市雑賀
町）の溶接
加工実験室
では、じつ
と汗が吹き
出してく
る。材料技
術分野の中
でも溶接を
専門とする
松原敏夫主
任（38）は「これでも真夏
に比べて随分作業がしや
すくなった」と額の汗を
ぬぐった。

この日、松原主任のも
とを訪れたのは食品充填
機製造大手・四国化工機
（北島町）の社員ら。2
008年から共同研究し
ている「溶接技術訓練装
置」がようやく発売にこ
まできた。

副課長（59）は「われわれ
は溶接のプロだけど、カ
メラやパソコンについて
は全くの素人。センター
との連携がなければこ
まで来られなかった」と

四国化工機の川村誠三
業の丸浅苑は11年8月、
同市雑賀町のセンター隣
置くシイタケ栽培・加工
当時食品加工部門を担当
していた福田和弘副本
長（54）とともに、ニン
ジャやレンコンなどの野
菜チップスを作る真空フ
ラットを使って、生シイ
タケを素揚げにしてみ
た。油の温度や揚げ時間
を抽出する技術を確立

がきっかけだった。
最初に挑戦したのは
「シイタケチップス」。

室に入居。得意先回りで
最新の情報を仕入れて
は、福田副本部長に「こ
ういう商品が作れない
か」とアイデアを話し
た。

共同研究

信頼構築が成功の鍵

話す。
き着け、皆が充実感でい
つばいの表情を浮かべて
いた。

開発には松原主任だけ
でなく、画像処理や電気
機械などの研究員が知恵
を出し合った。松原主任
は「多様な分野のプロが
集まっているのがセンタ
ーの強み。複数分野にま
たがる課題でも、気軽に
相談してほしい」と笑顔

話す。
県内最大規模の菌床シ
イタケ栽培を手掛ける湯
浅社長がセンターを訪れ
たのは、2000年のこ
めていたなら、今の成功
なかった」と振り返る。

などを変えて何度も実験
したが、結果は全て失
や健康飲料などさまざま
な加工品を世に送り出
している。

福田副本部長は共同研
究を成功させる秘訣を
「企業の担当者や研究員
の情熱。これに尽きる」
と語る。「どちらかの思
いが強すぎて、弱くて
も駄目。そして、大きな
成果を出すにはそれだけ
の成功にたどり着く。そ
れが掛かることをお互
いに覚悟しておかなけれ
ばならない」とも。

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）

「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）



「溶接技術訓練装置」のテストを行う松原主
任（左端）と四国化工機の社員ら（徳島市雑
賀町の県立工業技術センター）